

令和3年度 自己評価・学校関係者評価書

学校法人藤原学園 日本平幼稚園 園長藤原健詞

学校法人藤原学園 日本平幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

「健やかな身体、やさしい心、豊かな想像力」のバランスのある成長・発達を目指す。

～6つの生きる力を育てる～

自立心・積極性・協力心・表現力・想像力・感謝

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- ① 子ども一人ひとりの「育ち」を大切にされた教育を進めていく。
- ② 保育内容（通常、行事）の見直し行う。
- ③ 園業務のICT化を推進し、業務の効率化を図る。
- ④ 日常的な感染症対策を随時検討し、教育とリスクのバランスを取っていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	評価点	自己評価	評価点	学校関係者評価委員会
保育の計画性	B	各学年主任を中心に前年度の反省点を踏まえて指導計画を作成した。学年ミーティングではカリキュラムの反省や改善、新しいアイデア、業務改善等について話し合いを定期的に行った。しかしながら新型コロナへの対応もあり、計画通りに進まない部分もあった（特に3学期）変更点が出る中で、適宜話し合いを重ね、最善の努力を行ってきた。来年度は学年を超えた子どもの様子を踏まえて、計画をしていきたい。	A	昨年度にも増して新型コロナの影響もあって、保育の計画性の部分では計画通りにいかないことがたくさんあったと思う。その中でも園長を中心に、状況に合わせた計画変更がなされており、その点については非常に評価が高いと言える。翌年度も引き続き感染症の流行が懸念されるが、令和3年度を参考に、より柔軟に対応していけるような計画づくりを期待している。

<p>保育のあり方 幼児への対応</p>	<p>A</p>	<p>一人ひとりの子どもを「一人の人間」として認め、良いところを見つけ、伸ばしていくということに重点を置いて今年度も行ってきた。特に新型コロナ感染対策として、どこまで子ども達に伝え実行していくのかという点で大いに悩んだ。しかし、子ども達も1年間を通して基本的な対策が生活習慣として身につけてきた様子も見られ、今後もその状況に合わせた対応を随時行っていくことが大切だと感じた。</p>	<p>A</p>	<p>園内研修を通して、自分たちの保育の良さや課題について、その「あり方」を見直す機会を設けている点が非常に評価できる。子どもたちに求められる力も変化していることから、こうした取り組みは今後も継続して行っていく必要があると感じた。新型コロナへの対応として、昨年度にも増して厳しい状況であったが、その都度、最善な対応を園児にしていたと感じられる。</p>
<p>教師として資質 能力、適正等</p>	<p>A</p>	<p>理事長、園長を筆頭に、日々の話し合いの中で「教員」としての品格、そして姿勢を伝えてきた。能力は様々だが、教員としての姿勢は一人ひとりが自覚を持ち、取り組んでいたように感じる。また園内研修を通じて、一人ひとりの教師の「良さ」を捉え、生かす経験が出来たように思う。またその影響を受け、「やってみよう！」と、互いに良い影響、刺激を受ける機会となったと感じている。</p>	<p>A</p>	<p>教師としての資質・能力は個々の教員に差はあるが、今年度も研修などを通して、その資質の向上に繋がっていると感じる。また日本平幼稚園の文化として、教師の資質についてあるべき姿勢を理事長が伝え続けてきたことにより、どの教師についても基本的な姿勢が育っているように毎年感じている。今後も教師としての姿勢について、教職員に日々伝え続けていくことを期待している。</p>
<p>保護者への対応</p>	<p>A</p>	<p>基本的な方針として、「園と家庭が揚力して子どもの成長を見守る」としており、日々の連絡などを通して、出来る限り子ども達の様子を伝えてきた。新型コロナについても、日々の感染対策、急な変更点等にも保護者の協力があり比較的大きな混乱が起こらずに終えることが出来た。こうしたことも、日頃からの保護者との信頼関係づくりによるものであり、改めてその協力体制を気づく為の努力を継続していく重要性を再認識した。</p>	<p>A</p>	<p>2週間に一度配布しているウィークリーメッセージや日々の保護者対応など、綿密に連絡を取っていると感じられる。新型コロナに対する対応も、昨年度と状況が変わっている中で、出来る限り素早い対応を取っており、保護者対応も適切であったと感じられる。来年度も引き続きこのような状況が続くと思われるが、今年度の経験を活かし、保護者と協力しながら教育を進めて欲しいと感じる。</p>

<p>地域の自然や地域との関わり</p>	<p>A</p>	<p>昨年度は行うことが出来なかったいちご狩りやお茶摘み等、感染対策を講じながら、地域の環境を生かした行事を進めてきた。子育て支援活動を通じた地域の子ども、保護者との交流においては、昨年度にも増して厳しい状況の中、中止せざる負えない機会も多かったが、その中でもできる限り地域の子どもや保護者同士の交流の場として進めてきた。</p>	<p>A</p>	<p>昨年度中止になったお茶摘みやいちご狩り、遠足について、感染対策を講じながら行えたことについて良かったと感じている。やはり地域との関わりを持つことは、教育機関において重要な点だと感じており、子どもたちにとっても、身近な環境について改めて知る機会となる。新型コロナの状況次第でもあるが、来年度も検討を重ね、是非実施して欲しいと感じている。</p>
<p>研修と研究</p>	<p>A</p>	<p>昨年度はなかなかできなかった園内研修を今年は各クラス1回、年13回として行った。研修担当者を決め、子どもの様子を動画で撮影し、子どものつぶやきや様子を客観的にみることで、新しい見方、また成長をみとる機会となった。その中で、今後の対応などを職員間で共有することで、クラスの枠を超えた子どもの共通理解、何より教師の良い刺激となる研修となった。</p>	<p>A</p>	<p>園内研修が昨年度よりもさらに充実していたという点において、教師の資質向上に力を入れており評価できる。研修担当者を決め、計画的に行っていったことも良いと感じた。また外部講師の研修も今年度行われており、特に小学校の校長先生を招いての「幼少接続」を意識した研修では、普段あまり関わることのない小学校の先生から見た幼児教育、また卒園児の話を聞く機会となっており、今後も継続すると良い研修だと感じた。</p>
<p>外部アンケート</p>	<p>A</p>	<p>多くの保護者の方が園の教育に満足しているという結果であった。新型コロナウイルスの影響もあり、変更が多々あった中ではあったが、このような評価を戴けたことは大変うれしく、また改めて今後も保護者との連携を大切にしていける必要がある事を強く感じた。</p>	<p>A</p>	<p>たくさんの保護者より高い評価を受けており、やはり日頃の積み重ねがこの結果へとつながっていると感じた。来年度も新型コロナへの対応が大変だと思うが、日頃の細やかな対応がこういう結果に結びつく為、是非これからも継続して欲しい。</p>

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ① 子ども一人ひとりの「育ち」を大切にされた教育を進めていく。 (評価：A)
- ② 保育内容（通常、行事）の見直しを行う。 (評価：A)
- ③ 園業務の ICT 化を推進し、業務の効率化を図る。 (評価：B)
- ④ 日常的な感染症対策を随時検討し、教育とリスクのバランスを取っていく (評価：A)

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
自然環境を生かした 保育	日本平幼稚園の大きな特徴として、裏山等の自然環境が挙げられる。私たちにとって、そして子どもたちにとって身近で当たり前な自然環境であるが、改めてこの「自然」に注目し、どんな活動が出来るか？あるいはどんな育ちにつながっているか？ということについて深く考えていきたい。
「ねらい」を大切に した保育	保育には「ねらい」がある。「ねらい」とは、保育の「目的」である。何を大切にするのか？一度保育の原点に立ち返り、今後も目的を意識した実践を心掛けていく必要があると感じている。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

昨年度に引き続き、新型コロナに悩まされた一年であったと感じている。特に 3 学期は地域の感染者数が激増し、保育施設での感染も広がっていたため、より感染を身近に感じ対応にも苦労した事とうかがえる。迅速な対応が求められる中でも、保護者の理解を得ながら対応できたことは評価に値する。またそうした対応に対して保護者の理解が得られたことも、日頃の対応によって信頼関係が築かれていたからだと感じている。

教育現場は、人手不足や子どもの減少等、様々な課題を抱えているが、今後はこうした課題に対してどう対応していくのか、どう質の高い教育を維持していくのか、ということが学校経営において求められている。まず子どもの成長を第一とし、保護者と連携を取りながら、よりよい園作りをこれからも継続して欲しいと思う。